

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 鳴水 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

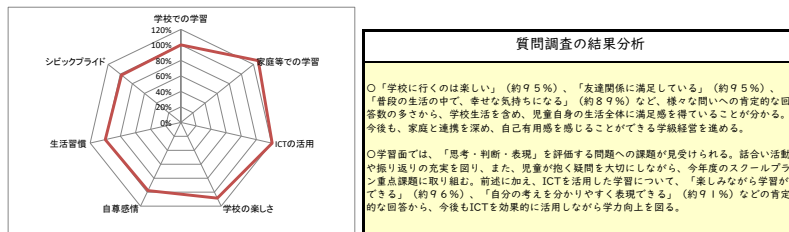
- 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

- 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を上回っている。自分の考えが伝わるよう表現を工夫する・集めた材料を分類・関係付けし内容を検討する問題では、高い正答率を示した。一方で、事実と感想・意見を区別し、工夫して書き表す問題では課題が見受けられた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	漢字（知識・技能）・自分の考えが伝わるように表現を工夫すること（思考・判断・表現）	上回っている
	努力が必要な問題	目的や意図に応じて、事実と感想・意見を区別して書くなどの表現の工夫（思考・判断・表現）	
算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を上回っている。問題場面の数量を捉え式に表す・角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する問題では、高い正答率を示した。一方で、速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係性について考察する問題では課題が見受けられた。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	数と計算（知識・技能）・図の理解（思考・判断・表現）	上回っている
	努力が必要な問題	変化と関係（思考・判断・表現）	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- 教科に関する取組

前述したように、国数ともに、「思考・判断・表現」を評価する問題への課題がある。前期前半の取組の点検を行い、前期後半、後期前半には、「発問の工夫」や「振り返りの時間確保」の強化に取り組んだ。授業改善として、前述したICT活用も含めながら、児童の実態に対応した授業改善に、今後も取り組んでいく。

- 家庭生活習慣等に関する取組

「家に本がどのくらいあるか」に関する問いに対して、「10冊未満」と回答した児童が全体の約30%であった。そのため、家庭での読書の機会が少ないことが考えられる。本校独自の「読み聞かせ」や「朗読」を継続しつつも、読書を習慣付ける方法を検討していきたい。また、家庭学習の平均時間は、全国平均を上回る結果となった。今後も、学習内容の定着が図れるよう工夫して取り組んでいきたい。